

知的障害・発達障害とその家族の支援体制における QOLの視点の検討

研究分担者： 本田秀夫（信州大学）

研究協力者： 小林真理子（山梨英和大学）

中嶋彩（信州大学）

久保木智洸（山梨県立大学）

発達障害児とその家族への地域支援体制に関する研究班¹⁾

年度	課題名	概要
H25-27	発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価	・ 提言を作成
H28-29	発達障害児者等の地域特性に応じた支援ニーズとサービス利用の実態の把握と支援内容に関する研究	・ Q-SACCS ²⁾ を作成
R3-4	地域特性に応じた発達障害児の多領域連携における支援体制整備に向けた研究	・ Q-SACCSのマニュアルを作成 ・ 地域ケアパス(幼児期)の手引き案を作成 ・ ReMHRAD ³⁾ と連携
R5-6	地域特性に応じた発達障害児の就学から就労を見据えた多領域連携による支援体制整備に向けた研究	・ Q-PASS ⁴⁾ を作成 ・ 地域ケアパス(就労前)の手引き案を作成

1) これまでに厚労科研・こ家科研で本田が代表を務めたもの

2) 「発達障害の地域支援システムの簡易構造評価」

3) 「地域精神保健医医療福祉資源分析データベース」

4) 「発達障害の支援サービス機能の簡易実用評価」

就学までのQ-SACCS(青:事業化できている、赤:明確化が課題、緑:機能強化が課題)

<市町村名 > <人口: 人> <年間出生: 人>	0~3歳	継時的 インターフェイス (引き継ぎ) 5W1H	4~6歳	継時的 インターフェイス (引き継ぎ) 5W1H	7~15歳
レベルⅠ (毎日) 日常生活水準		△		△	
共時的 インターフェイス (情報共有、紹介等) 5W1H	○	△	○	△	○
レベルⅡ (定期的) 専門療育的支援		○		○	
共時的 インターフェイス (情報共有、紹介等) 5W1H	○	△	○	△	○
レベルⅢ 医療的支援	病院 <内・外 >	・・・継続・・・	病院 <内・外 >	・・・継続・・・	病院 <内・外 >

*事業の全てを自治体職員で実施○、一部の機能を外部に委託△、全てを外部に委託□、を記入下さい。

Q-PASS：発達障害の支援サービス機能の簡易実用評価—その1 気づきから診断まで—

対象	支援	I 事例化前段階	II 事例化・スクリーニング段階	III つなぎ支援段階	IV 直接支援段階
本人支援	アセスメント	<input type="checkbox"/> a) 特性についての研修 [] <input type="checkbox"/> b) 日常生活での気づき []	<input type="checkbox"/> a) スクリーニング [] <input type="checkbox"/> b) 初期アセスメント []	<input type="checkbox"/> a) 診断に向けての情報収集・ 専門的アセスメント []	<input type="checkbox"/> a) 診断 [] <input type="checkbox"/> b) 診断のための専門的アセスメント []
	直接支援			<input type="checkbox"/> b) (親)子グループ支援 []	<input type="checkbox"/> c) リハビリテーション <input type="checkbox"/> d) 発達支援・療育 []
家族支援	気づき	<input type="checkbox"/> c) 情報提供 []	<input type="checkbox"/> c) 『気づき』の支援 []		
	つなぎ			<input type="checkbox"/> c) 医療・福祉サービスの ガイダンスと 受診勧奨 []	
	心理的	<input type="checkbox"/> d) 子育て全般の アクセシビリティ相談 []	<input type="checkbox"/> d) 特別な子育ての相談 と健診事後指導 []	<input type="checkbox"/> d) 『特性理解』のガイダンス と心理教育 []	<input type="checkbox"/> e) 特性に応じた子どもとの 関わり方の心理教育 [] <input type="checkbox"/> f) 家族カウンセリング等 [] <input type="checkbox"/> g) レスパイト ケア []
ピアサ			<input type="checkbox"/> e) 親(子)グループ支援 []	<input type="checkbox"/> h) 当事者団体等につなぐ支援 []	
支援者支援	コンシェルジュ	<input type="checkbox"/> e) 気づきと理解 []	<input type="checkbox"/> e) スクリーニングと初期アセスメント []	<input type="checkbox"/> f) つなぐための介入方法と インクルーシブな環境設定 []	<input type="checkbox"/> i) 在籍機関の専門的理解 []
	連携				<input type="checkbox"/> j) 支援体制の構築、関係者会議 の開催 []
啓一般	全体地域 啓発への	<input type="checkbox"/> f) 知識啓発 []	<input type="checkbox"/> 知識啓発 []	<input type="checkbox"/> 知識啓発 []	<input type="checkbox"/> 知識啓発 []

I 終戦後～1990年代

時代区分と特徴	キーワード	具体的な出来事・内容
行政主導の措置による療育支援	保護・救済 健全育成 心身の健康の維持 Welfare的サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成される。生活を保障され、愛護される。（児福法第1条） ・各障害種別の入所施設の追加（1949、1950） ・育成医療の創設（1954） ・特別児童扶養手当の支給開始（1964） ・療育手帳制度の開始（1973）

終戦後、子どもを「生かす」ための法律であり、障害児に関しては、療育を行い、可能な限り正常に戻し、心身の健康を保つことを重視している。

QOL（生命の質）・・・心身の健康を保つこと

II 2000年～2021年

時代区分と特徴	キーワード	具体的な出来事・内容
自己決定権の尊重と 地域生活可能な支援	契約 自己決定権 地域で暮らす Well-being的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・措置費制度から支援費制度へ（2004） <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害者支援法の制（2004） ・障害者自立支援法の制定（2006） ・障害児施設の一元化（2010） ・通所支援の実施主体を市町村に（2010） ・障害児通所支援（児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援）の創設（2010） ・居宅訪問型児童発達支援の創設（2016）

子ども（もしくは家族）がサービスを自己決定し、生活のしづらさを減らしていく。可能な限り、これまでの暮らしを続けていけることを重視している。

QOL（生活の質）・・・これまでの暮らしを続けて、暮らしづらさを減らすこと

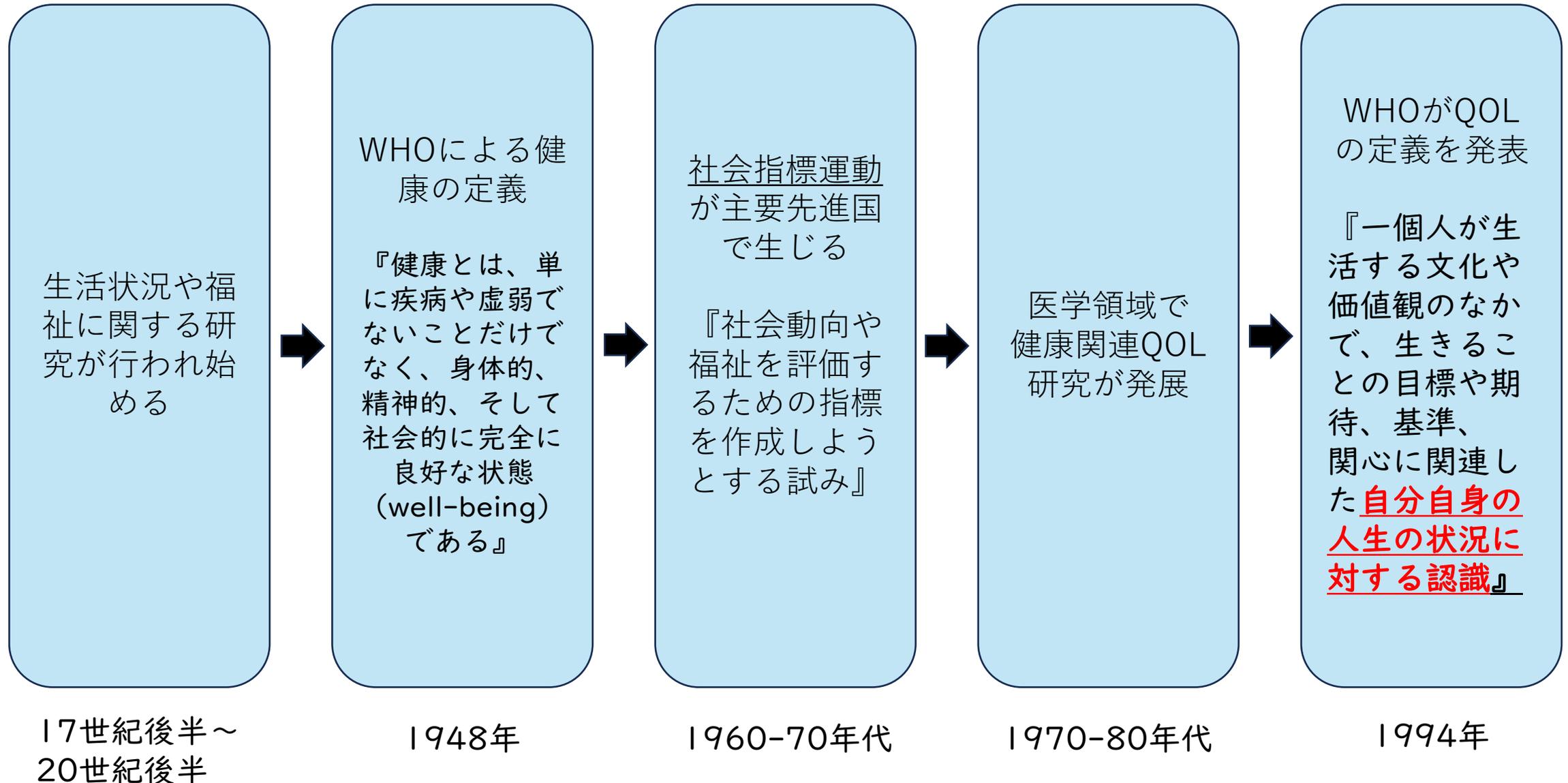
Ⅲ 2022年～

時代区分と特徴	キーワード	具体的な出来事・内容
インクルージョンの推進 による一体的支援	地域共生社会 インクルージョン 多様性（ダイバーシ ティ）	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充（2022 児福法） ・全てのこどもについて、個人として尊重され、・・・意見表明する機会、多様な社会的活動に参画する機会の確保されること（2022 こども基本法） ・全てのこどもについて、年齢及び発達の程度に応じ、意見の尊重、最善の利益が優先して考慮されること（2022 こども基本法） ・十分な養育の支援、社会環境の整備（2022 こども基本法）

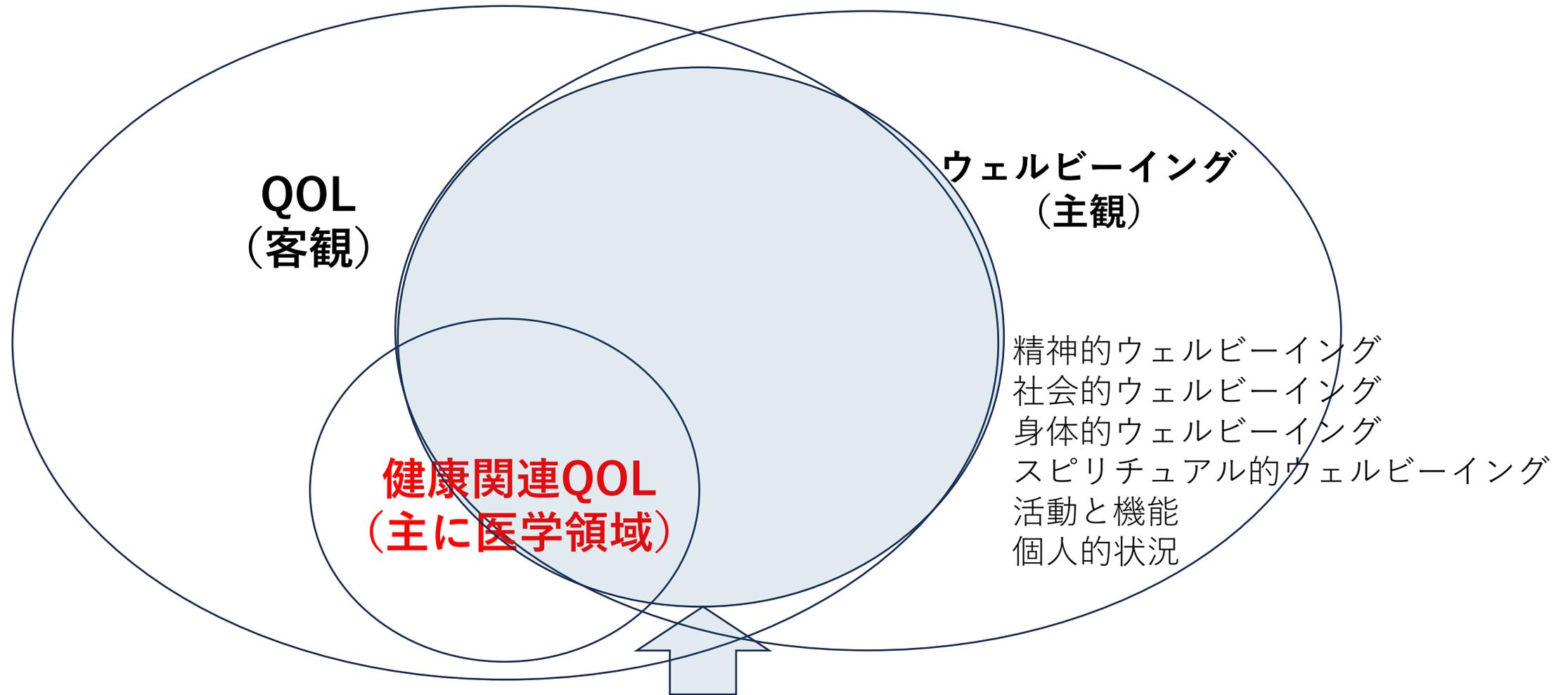
多様性（ダイバーシティ）を大切にして、地域共生社会を目指す。そのためには、こどもの権利や幸せを守ることを第一と考え、こどもの意見を尊重していき、自分らしさを重視する。

QOL（人生の質）・・・自分らしい生きがいを見つけること

QOL研究の歴史



QOL概念の整理



- ・ WHOによるQOLの定義 (1994年)
「一個人が生活する文化や価値観のなかで、生きることの目標や期待、基準、
関心に関連した 自分自身の人生の状況に対する認識」

対象	支援	V 就学・進学移行段階	VI 直接支援段階(学齢期) 2	VII 社会生活・就労準備段階
本人支援	メッセージ	<input type="checkbox"/> a) スクリーニング [] <input type="checkbox"/> b) 就学・進学先決定のための専門的アセスメント []	<input type="checkbox"/> a) 発達支援・療育のための専門的アセスメント []	<input type="checkbox"/> a) 進路選択のための専門的アセスメント []
	直接支援	<input type="checkbox"/> c) 情報収集 [] <input type="checkbox"/> d) 就学・進学先体験 []	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> b) 集団適応 [] <input type="checkbox"/> c) 基礎学力づくり [] 【学校領域での支援】 <input type="checkbox"/> d) 健康管理 [] <input type="checkbox"/> e) 発達支援・療育 [] <input type="checkbox"/> f) ADL支援 [] <input type="checkbox"/> g) 社会生活スキルの支援 [] 【生活領域での支援】 <input type="checkbox"/> h) 居場所確保 [] <input type="checkbox"/> i) 余暇活動 [] <input type="checkbox"/> j) 人とのつながり [] </div>	【就労(準備)領域での支援】 <input type="checkbox"/> b) 進路先の情報収集 [] <input type="checkbox"/> c) 就労体験 [] <input type="checkbox"/> d) 就労スキルの支援 [] 【生活領域での支援】 <input type="checkbox"/> e) 健康管理 [] <input type="checkbox"/> f) 社会生活体験 [] <input type="checkbox"/> g) 社会生活スキルの支援 [] 【居場所支援】 <input type="checkbox"/> h) 居場所確保 [] 【余暇支援】 <input type="checkbox"/> i) 余暇活動 [] <input type="checkbox"/> j) 人とのつながり []
	つなぎ	<input type="checkbox"/> e) 就学先への引継ぎ []		<input type="checkbox"/> k) 社会資源に関する情報提供とつなぐ支援 []
	心理的	(<input type="checkbox"/> g') 就学・進学先のガイダンスと心理教育 []	<input type="checkbox"/> k) 自己理解のための心理教育 [] <input type="checkbox"/> l) 二次障害等についてのカウンセリング []	<input type="checkbox"/> l) 社会生活・就労のためのガイダンスと心理教育 [] <input type="checkbox"/> m) メンタルヘルスの安定のためのカウンセリング []
	ピアサポ		<input type="checkbox"/> m) 当事者同士のつながり []	<input type="checkbox"/> n) 当事者団体等につなぐ支援 []
家族支援	つなぎ	<input type="checkbox"/> f) 教育・福祉サービスのガイダンス []	<input type="checkbox"/> n) 社会資源の利用 []	<input type="checkbox"/> o) 社会資源に関する情報提供 []
	心理的	<input type="checkbox"/> g) 就学・進学先のガイダンスと心理教育 []	<input type="checkbox"/> o) 成長に応じた子どもとの関わり方の心理教育 [] <input type="checkbox"/> p) 家族の問題に応じたカウンセリング []	<input type="checkbox"/> p) 子どもの自立に向けたガイダンスと心理教育 []
	ピアサポ		<input type="checkbox"/> q) 当事者家族同士のつながり) []	
支援者	サコルン	<input type="checkbox"/> h) 専門的アセスメント []	<input type="checkbox"/> r) インクルーシブに向けた専門的理解 []	<input type="checkbox"/> q) 専門的理解 []
	連携	<input type="checkbox"/> i) 支援体制の構築、関係者会議の開催 []	<input type="checkbox"/> s) 現状確認のための関係者会議の開催 []	<input type="checkbox"/> r) 支援体制の構築、関係者会議の開催 []
啓一発般	地域	<input type="checkbox"/> 知識啓発 []	<input type="checkbox"/> 知識啓発 []	<input type="checkbox"/> 知識啓発 []

【学校領域での支援】

- b) 集団適応 []
- c) 基礎学力づくり []

【生活領域での支援】

- d) 健康管理 []
- e) 発達支援・療育 []
- f) ADL支援 []
- g) 社会生活スキルの支援 []

【居場所支援】

- h) 居場所確保 []

【余暇支援】

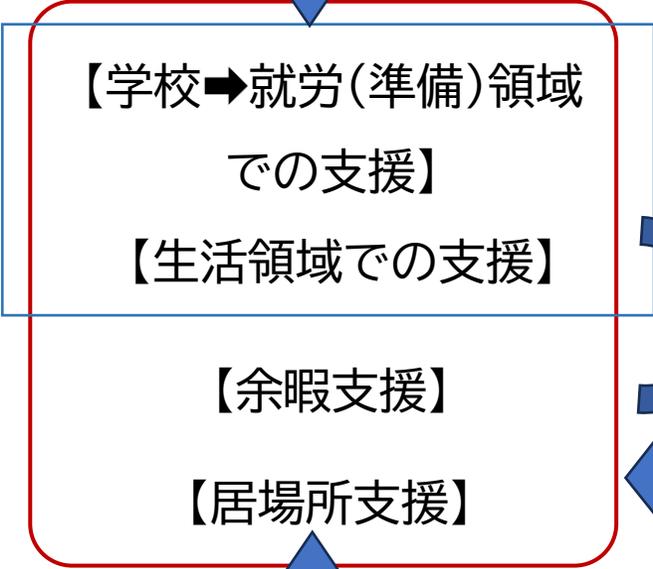
- i) 余暇活動 []
- j) 人とのつながり []

学齢期の支援サービス機能の分析

VI 直接支援段階(学齢期) 2		
メント アセス	<input type="checkbox"/> a) 発達支援・療育のための専門的アセスメント	
本人支援	【学校領域での支援】 <input type="checkbox"/> b) 集団適応 <input type="checkbox"/> c) 基礎学力づくり 【生活領域での支援】 <input type="checkbox"/> d) 健康管理 <input type="checkbox"/> e) 発達支援・療育 <input type="checkbox"/> f) ADL支援 <input type="checkbox"/> g) 社会生活スキルの支援 【居場所支援】 <input type="checkbox"/> h) 居場所確保 【余暇支援】 <input type="checkbox"/> i) 余暇活動 <input type="checkbox"/> j) 人とのつながり	
	つなぎ	
	心理的支援	<input type="checkbox"/> k) 自己理解のための心理教育 <input type="checkbox"/> l) 二次障害等についてのカウンセリング
	ピアサポート	<input type="checkbox"/> m) 当事者同士のつながり

支援サービス機能

アセスメント



社会的接触を維持し、ソーシャルネットワークを広げる多重構造システム

心理的支援

つなぎの支援: 社会保障

令和6年度:

知的障害・発達障害児とその家族の支援体制にQOLの視点はどの程度含まれているのか？

文献検討を中心に行った。

➤ 児童福祉法・こども基本法から見たQOL

障害福祉の法制度は「生命の質」(終戦～1990年代)、「生活の質」(2000年～2021年)を経て現在は「人生の質」(2022年～)を検討する段階である。

➤ QOL研究の歴史

20世紀後半からQOLの評価方法が広がり、直近では障害種別に特化したQOLの評価法の開発が進められている。

➤ 支援サービス機能におけるQOLの位置づけ

現行の支援サービスのうちQOLと大きく関係する発達障害児の余暇支援の提供は放課後等デイサービスのみであり、就労支援と併用して余暇支援サービスを活用することが難しい現状にある。

今年度の研究の背景

- QOL維持に関連の高い生活領域での支援、居場所支援、余暇支援等は、放課後等デイサービスの比重が大きいが、年齢が上がると利用者が減少していく。特別支援教育の「自立活動」は、特別支援学校高等部では保障されるが、知的障害を伴わない発達障害のある生徒に対しては、ごく一部を対象とした通級指導教室しかない。
- 16歳以降の発達障害児者が利用できる社会資源の1つとして、障害者総合支援法による訓練等給付ではない地域活動支援センターがあげられる。しかし、発達障害児者に対する専門的な支援プログラムの実施状況について、全国規模で体系的に調査した研究は、我々の知る限り存在しない。

地域活動支援センターの概要

根拠: 障害者総合支援法第77条第1項第9号
基準: 地域活動支援センターの設備及び運営に関する
基準(平成18年厚生労働省令)

目的・特徴

- 障害者等を通わせ、創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等の便宜を供与する障害者総合支援法上の施設(法第5条第1項第27号)
- 地域の実情に応じ、市町村がその創意工夫により柔軟な運営、事業の実施が可能

事業内容

基礎的事業として、創作的活動、生産活動、社会との交流の促進等の事業を実施

実施主体

市町村、特別区、一部事務組合及び広域連合

設置要件等

- 10人以上の人員が利用できる規模(※ 創作的活動の機会の提供等ができる場所や必要な備品等を整備)
- 施設長1名、指導員2名以上の職員を配置

補助内容

- 基礎的事業については、地方交付税により措置(平成18年度より)
- 手厚い人員配置や機能訓練等のサービスを実施するなど、センターの機能強化を図る場合には、「地域活動支援センター機能強化事業」(地域生活支援事業費等補助金)として、国庫補助を実施(国1/2以内、都道府県1/4以内)

施設数等

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
施設数(箇所)	2,935	2,849	2,824	2,794	2,765
定員数(人)	48,703	47,689	47,202	46,780	46,964

出典) 社会福祉施設等調査
(各年10月1日時点)

今年度の研究概要

目的

全国の地域活動支援センターにおいて、発達障害児者を対象とした支援がどの程度行われているか、その現状を調査する。

方法

地域活動支援センターの情報をホームページ上で公開している都道府県を対象とし、選択された県に存在するすべての地域活動支援センター約1,100カ所に郵送で研究依頼書とアンケート(Googleフォーム)のURLを送付し、センターの職員に回答を依頼した。

アンケート内容

- センターの特徴（種別、開所日数、スタッフについて、利用者数）に関する項目
- 発達障害の人に向けた活動やプログラムの有無とその日数及び内容